



《表紙写真》松山市民文化祭第42回美術展市長賞受賞
「ランタン・ヴィレッジ」(洋画部門)
ナイナバスティ・アチュート

「きらめき対談」松山ゆかりの詩人
秋彩る「松山市民文化祭」開催
松山の歴史(その五)
子規交交(第五回)

松山ゆかりの詩人

山本 耕一路と香川 紘子

ゲスト： 詩人 森原 直子さん

詩誌『野獣』主宰
愛媛詩話会事務局

コーディネーター： 太田 和博さん (本誌編集委員)

きらめき対談

今回は松山から詩を一筋に発信しつづけた二人の詩人、山本耕一路さんと香川紘子さんについてもっと多くの人に知ってもらいたいと、親交の深かった詩人森原直子さんに、その出会いと魅力をお話していただきます。



対談のもよう



本誌編集委員
太田 和博さん

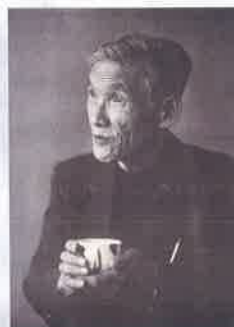
太田 山本さんのお話からお願ひします。
森原 耕一路さんが一番考えておられたのは、松山で詩を書く仲間を増やしたい。仲間と一緒に詩を追求していきたいということだったと思います。
太田 耕一路さんは、どんな人ですか。
森原 耕一路さんの世代は、戦争を体験されて、大変な時代を生きてこられました。普段は寡黙で物静かで優しい方でした。詩の集まりの時も、大きな声で主張

森原 『野獣』にしても「愛媛詩話会」においても、いつも全力投球。「詩のボクシング」やモダンダンスなどの他のゲ

太田 「生かされている間は書かないかん、やらないかん。」と言われていたそうですね。
森原 『野獣』にしても「愛媛詩話会」において、いつも全力投球。「詩のボクシング」やモダンダンスなどの他のゲ

太田 『野獣』は何号まで？
森原 今は215号で足踏み状態ですが、耕一路さんは205号が最後になりました。最後の原稿を、わざわざ私方に届けてくださったことを思い出します。
太田 「生かされている間は書かないかん、やらないかん。」と言われていたそうですね。
森原 『野獣』にしても「愛媛詩話会」において、いつも全力投球。「詩のボクシング」やモダンダンスなどの他のゲ

山本 耕一路さんのプロフィール



昭和六〇年七九歳、第一八回小熊秀雄賞受賞。
愛媛詩話会、愛媛詩人祭等を開催し、後進の道を開く。詩集『しろい樹』『鯛もしんぶん読んで』等二十冊の詩集を世に出す。自伝『看板小僧』、私の川柳回顧録『あれやこれや』がある。

一九〇六年(明治三九年)十二月八日
松山市清水町に生まれる。
二〇〇五年(平成十七年)二月二三日
(九八歳没)
昭和一九年三八歳、川柳『あゆみ』創刊。
昭和三二年五一歳、詩誌『野獣』創刊。

ループとのコラボレーション。県立美術館での自作の詩と絵画や彫刻作品などとの展示を企画、みんなで試行錯誤した頃を懐かしく思い出します。

寡黙な詩人

若い人をひきつける魅力

太田 耕一路さんとの最初の出会いは？
森原 不思議なのですが、私が高校2年の時に詩集を出してしまっていて、松山にも『野獣』という詩誌があるので、同人になりませんかと、声を掛けて頂きました。耕一路さんはご高齢になられてからも自分の足でとことん歩いていく。新しいことに臆せず、かといって大げさに言うのではなく、淡々と歩いていかれました。



山本 耕一路さんが中心になって創刊した詩誌『野獣』

香川 紘子さんのプロフィール



一九三五年（昭和十年）一月三日姫路市に生まれる。二〇二一年（令和三年）二月二十八日（八六歳没）生後三カ月で、脳性麻痺と診断される。父の故郷、広島で被爆。終戦後、十一歳の時に一家揚げて松山生活をはじめ。

十五歳で大阪毎日中学新聞（一九四九年日本で唯一の日報紙として創刊）詩壇に第一席で入選。昭和二十九年十二月「サンデー毎日」で十代のチャンピオンとして、十九歳の香川紘子は、十八歳の寺山修司と共に紹介される。昭和三十三年（二三歳）、第一詩集『方舟』出版、『壁画』『魂の手まり唄』で日氏賞候補に推薦。平成九年六二歳、詩集『DNAのパスポート』で第四回丸山薫賞受賞、詩集『清流の心電図』等十冊の詩集を世に出す。昭和五十年愛媛新聞文化賞、昭和六三年『香川紘子全詩集』で愛媛出版文化賞受賞。自伝『足のない旅』、随想集『心の橋』がある。



詩人 森原 直子さん

太田 香川紘子さんとは、どのようなことで出会われたのでしょうか。

森原 私が二十歳の頃、香川さんから「詩の勉強会に来ない？」と誘っていたので、香川さんの存在は知っていました。最初はちょっと怖い人だと思っていました。

初めてお会いした時、香川さんは、クッションに座っておられて、まるでおやゆび姫のようで、とてもチャームिंगな方でした。重度の障害をお持ちで、自分で文字を書くことはできませんでしたが、お父様と、お母様が口述筆記をされ、香川さんの詩作を手助けしておられました。ご両親が亡くなられた後は、私が口

述筆記を引き継ぎました。

太田 香川さんはどんな詩人でしょうか。

森原 香川さんの詩は、生きるとはどういうことかということ、常に深く考えさせられる詩でした。『清流の心電図』という最後の詩集に「声の正しき者」という詩がありますが、香川さんにとって、自分は常に「声の正しき者」でありたい。そういう生き方を貫きたいという思いがあつたのだと思います。

自分が発信した言葉には、一語一語に責任を持つという生き方ですね。それはお父様の影響ではなかったかと思えます。そのように、香川さんを育てられたご両親、ご家族は素晴らしいと思います。

太田 香川さんの詩集で『DNAのパスポート』は、第四回丸山薫賞を受賞されましたが……。

森原 詩集の中の「命の日数」というタイトルですが、この詩の最後「わたしはあなたを身籠つたのです」という言葉が、パソコンに打ち込んだ時、香川さんが、



香川 紘子さんの最後の詩集『清流の心電図』

お母さまの死を乗り越えられたのが分かり、涙が止まりませんでした。

太田 自伝『足のない旅』によると香川さんは十九歳の時にNHKラジオの「フランス語講座」を受講されたそうです。フランス文学者の渡辺一夫先生の講座で、大江健三郎も渡辺教授の授業を受けたくて東大に進学したんだそうです。二人は同じ昭和十年生まれなんですね。香川さんは、渡辺先生から、語学だけでなく、人生の大きなものを教わったと書いています。不思議なご縁を感じます。

行動的で心がジャンプする熱い思い

森原 香川さんは、たまたま車いすを使われるだけで、他のことは何も変わらないうのです。好奇心を持ち、深く物事を視る目を持ちながら、とてもユーモアのある楽しい方です。そして行動的な方でもあります。香川さんが行動的って言ったら皆さんは、えっ？と思うかもしれませんが、動けるから行動的というのではなく、心が常に弾ける、ジャンプしているようなことではないでしょうか。

フランス語と言えば、面白い逸話があります。ミロの絵に感動した彼女が、ミロにお手紙を書いたのだそうです。そう

しましたら、ミロから彼のポスターにサインされたものが届いたのです。これも香川さんらしい逸話です。自分がこうしたいと思ったら実行する。熱い思いを持つておられました。

香川さんのお付き合いは、楽しい思い出がたくさんあります。詩を書くだけでなく、よく遊びにも行きました。美術館に出かけたり、クリスマスが近づくと、お友達にクリスマスカードを贈りたいというので、デパートにも行きました。四季折々、堀之内のお堀端にも散歩に出かけました。不思議なくらい活動的な方でした。

太田 詩のファンと「きらめき」の読者にメッセージをお願いします。

森原 詩は誰のために書くのかというと、自分のために書くというふうに思います。人生、そう長くはないですから。私は二十歳くらいから、ある意味、意志的に生きたいと思っていました。そういう時代に耕一路さんと香川さん、お二人に出会え、お二人を通して、いろんな方々と出会うことができ、様々な場面を作っていたのだと思います。お二人を通して、私は世界を広げてもらって、ありがたかったです。

詩も、「こうでなくてはならない。」ということは絶対ないと思っています。自分の心の表現として、書くことによつて、自分と向き合うこと。自分の中にきちっとした正しい物差しを持つということが大切ではないでしょうか。それは香川さんにも耕一路さんにもつながることだと思っています。

太田 ありがとうございます。松山の魅力的な詩人を知ることができました。

電柱 山本耕一路

電柱と電柱と電柱と電柱が

同じ間隔で深夜一步前へ踏み出ている

明け方になると

電柱と電柱と電柱と電柱が

一センチも違わぬ間隔で

元のように後退している

誰もそれを見とどけた者はない

(詩集『眠りのひと』より)



耕一路

命の日数 香川絃子

「わが日の数のどれほどであるかをわたしに知らせ、わが命のいかにはかないかを知らせてください。」

とうたった

旧約の詩人の言葉に出会ってから

何年経っただろうか

今世紀初頭に生まれ

激動の時代を掻い潜って

九十二年七月を生きた母の命の日数が

わずか三三、八一八日にすぎないと知った瞬間

わたしの瞼に

火葬場の火照る炉から引き出された

あまりに慎ましやかな白っぽい灰が

オーバースラップした

母と暮らした

重度障害児としての六十年間に

二二、一九〇日でピリオドが打たれ

もう声を出して

〈お母さん〉と呼べなくなった

秋の日暮から

わたしはあなたを身籠ったのです

(詩集『DNAのパスポート』より)



詩集『DNAのパスポート』

第30回二之丸薪能

かがり火のもとで楽しむ 伝統芸能の能楽



▲二之丸薪能のようす

5月11日(木)、松山城二之丸史跡庭園内特設舞台で「第30回二之丸薪能」を開催しました。
(公社)愛媛能楽協会(土居英雄会長)の皆様による舞囃子「三輪(みわ)」、「清経(きよつね)」、「狂言「萩大名(はぎだいみょう)」、舞囃子「百萬念仏」(ひゃくまんねんぶつ)、能「殺生石 白頭」(せつしよせきはくとう)が上演されました。
松山城の石垣を背景に、かがり火とライトに照らし出された会場には、約462人の能楽愛好家が集い、日本が世界に誇る伝統芸能を堪能しました。

第29回二之丸大茶会

新緑薫る中、お点前披露



▲二之丸大茶会のようす

松山市文化協会に所属する「愛媛県茶道連盟 松山支部」の協力のもと、市内で活動する6流派の皆さんが、松山城史跡庭園内各所で、5月13日(土)と14日(日)の2日間にわかれて、お点前を披露しました。約1100人が参加、茶道への理解を深めるとともに、新緑薫る中でお茶を楽しみました。

川柳さんぽ in 道後

道後で川柳吟行



▲川柳さんぽ in 道後のようす

8月6日(日)、小学生の文化教養を高めようと、「川柳さんぽ」が開かれました。松山市文化協会に所属する「川柳まつやま吟社」の指導のもと、松山市内の小学生14人が、坊っちゃんカラクリ時計、湯神社、空の散歩道、松山市子規記念博物館などを、ボランティアガイドさんと一緒にめぐり、川柳づくりの楽しさを体験しました。
その後、各々の作品を発表しました。

秋彩る「松山市民文化祭」開催

第42回美術展

今回も多くの力作が出品された「美術展」は、洋画41点、日本画17点、版画11点、書198点、工芸24点、写真31点、彫塑2点、デザイン4点、総数328点から、特別賞である「市長賞」、「市議会議長賞」、「教育長賞」、「文化協会長賞」の4点、そして特選30点の受賞作品が選ばれました。

会期初日の「観賞会」は開催縮小のためございませんが、受賞作品には審査員の先生方のコメントを展示しております。ぜひ、地元のアート愛好家のみならず、皆さんの力作をご覧ください。

「会場」松山市総合コミュニティセンター
企画展示ホール（入場無料）

「会期」9月29日（金）～10月3日（火）9時～17時

初日は、開展式（10時～）終了後（10時30分頃）から入場。9月30日（土）は20時まで。10月2日（月）は休館。最終日は16時に閉展。

市長賞



「ランタン・ヴィレッジ」（洋画部門）
ナイナバステイ・アチュート

◎市長賞受賞 ナйнаバステイ・アチュートさんの声
受賞できてとてもうれしいです。作品はふるさとネパールのランタン・ヴィレッジを描いたものです。油絵を始めたのは愛媛大学に留学した2004年頃です。何度も消して塗りなおす作業は未知の世界と出会えるように楽しいです。今後も自然の中に人々の生活が見えるような絵を描いていきたいと思っています。

教育長賞



「暮れなずむ刻」（写真部門）
和泉 久信

◎教育長賞受賞 和泉 久信さんの声
カメラを本格的に始めて4年目での受賞、とてもうれしいです。作品は立岩川河口から夕陽を撮ったものです。半円形の夕日の下にフェリーが見え、雲も出ていて、普通のだるま夕日ではない構図に魅せられて、シャッターを切りました。いくつかの写真クラブに入会して、写真勉強中です。

文化協会長賞



「今若」（工芸部門）
宮内 咲子

◎文化協会長賞受賞 宮内 咲子さんの声
賞をいただけて、すごくうれしいです。6年前に「松山能面の会」の方に誘われ入会しました。作品の「今若」は、お公家さんでハンサムなところが気に入っています。作品が出来上がった時、ほめられると、また頑張ろうと思います。今、先輩方に教えていただけて、少しずつ勉強していると嬉しいです。

市議会議長賞

「王鐸詩」（書部門） 上甲 百恵（白嶺）



◎市議会議長賞受賞 上甲 百恵（白嶺）さんの声
受賞は先生を始め、皆さんの支えがあつてこそと、とてもうれしく思います。書には小学生の頃から親しんできました。今も春風書道会で、主に土曜、日曜日に指導いただいています。作品は王鐸の詩で、2日ほどで一気に完成させました。今後も自分が書きたいな、と思う書を作りたいと思っています。

松山市民文化祭「第42回美術展」受賞者一覽

【市長賞】

【洋画】

ランタン・
ヴァイレッジ

ナイナバステイ・
アチュート

【市議会議長賞】

【書】

王鐸詩

上甲 百恵
(白嶺)

【教育長賞】

【写真】

暮れなずむ刻

和泉 久信

【文化協会会長賞】

【工芸】

今若

宮内 咲子

【功労賞】

【日本画】

【書】

影岡

岡田 ユキエ

日野

影岡 秀隆

高木

高木 昭
(紅雪)

【写真】

【特選】

【洋画】

きりんピーナス2枚貝

菊池 祥裕

港の造船(クレーン)

中村 信仁

春節の蘇州遊覧

中須賀 繁子

卓上

杉山 秀子
(日典子)

【日本画】

花菖蒲

梅木 由紀美

雪中花

三好 知枝
(由紀)

【版画】

松山城

高橋 基

【書】

山河

澤田 乃理子

与謝野晶子の短歌
佳句 吉田 富美

長塚節歌 河野 邦彦

疑山園帖 村上 洋子
(篁光)

王鐸詩稿 菊地 美登里
(星苑)

劉長卿詩 新田 彰子
(彰風)

令狐楚詩 菅野 二三
(汀泉)

一人じゃない
道 北川 悦子
七言二句 青木 正光

気鍾光岳 井関 久香
(碧雲)

佳句 松本 美香
(春蘭)

佳句 鷹尾 明美
(彩鳳)

黄庭堅詩 中原 和恵
(陽華)

佳句 柿本 由里香
(紅雲)

【工芸】

能面「般若」 藤田 正博
虎の親子 黒田 輝子

信楽焼締花瓶 村上 好春

【写真】

想い Get! 尾崎 雄一
十六夜月 道土井 宏
【デザイン】 アイドル 山内 慶吾

「第42回芸術祭」

伝統芸能と
現代芸能の祭典

10/15
10/22

松山市民文化協会に所属する「音楽」「舞踊」「芸能」部門から49団体が出場して、日頃の活動成果を披露します。「お楽しみ抽選会」を開催予定です。ぜひご覧ください。

【会期】

令和5年10月15日(日)・22日(日)

【会場】

松山市民会館 大ホール(無料)

10月22日(日) 10時~18時

- ①YELLOW STONES
- ②真美フレッシュ体操 武田教室
- ③HULA KUMI EMA
- ④レイアロハグループ
- ⑤Hula Makahou
- ⑥ロケナニ フラストジオ
- ⑦NAO DANCE STUDIO
- ⑧劇団タ方元気印
- ⑨松山シニア・ジャズメンズ倶楽部
- ⑩ハーモニーアルコ
- ⑪愛媛大学ギタークラブ
＜休憩＞
- ⑫Estudio La Perla
- ⑬地紙直美フラメンコ教室
- ⑭一色美和フラメンコ GRACIA
- ⑮久保勝鼓フラメンコ・スタジオ
- ⑯Estudio La Fuente
- ⑰ノエミフラメンコスタジオ
- ⑱Feel Dance Academy
- ⑲バレエ・スタジオ・ミーム
- ⑳ひめバレエスタジオ
- ㉑美佳バレエスクール松山
- ㉒アサダ・ダンス・スタジオ
- ㉓森田康ニジャズダンススタジオ
＜お楽しみ抽選会＞ 予定

【出演団体(出演順)】

10月15日(日) 10時~18時

- ①創流民謡会
- ②都山流尺八 中予幹部会
- ③愛媛訓晃会
- ④民謡、三味線、風早会
- ⑤東野下獅子舞保存会
- ⑥河野善心寺獅子舞保存会
- ⑦立石純子舞踊教室
- ⑧清の糸道合奏団
- ⑨生田流箏曲地唄三絃 芙蓉会
- ⑩中島築山会
＜休憩＞
- ⑪長唄 杵家派 弥藤会
- ⑫長唄 松山杵家会 (弥代葉社中)
- ⑬愛媛県民踊指導者連盟
- ⑭伊予民踊研究会
- ⑮創作日本舞踊 海棠流
- ⑯日本舞踊河藤流河高会
- ⑰天心流 冠会
- ⑱若柳流 明珠会
- ⑲藤間流 ひな弥会
- ⑳紫雲館吾妻流剣詩舞道総本部
- ㉑泰鳳会
- ㉒伊予源之丞保存会
- ㉓藤間流 藤幸会
- ㉔沢井箏曲院 琴泉会
- ㉕藤間流 歌登美会
- ㉖伊予万歳 みぞのべ つばき会
＜お楽しみ抽選会＞ 予定

【出演団体(出演順)】

※内容については変更になる場合がございます。

【松山の歴史】

(その五)

江戸時代初めの北条地域

伊予史談会副会長

柚山 俊夫

立岩川はどこを流れていたか

今回は、北条地域の古い絵図を紹介しましょう。図1は、愛媛県歴史文化博物館のホームページで閲覧できる「伊予国絵図寛永図」の北条地域中心部（北条や辻）のあたりです。寛永という年号は一六二四〜一六四四年、ちょうど三代将軍家光の時代です。村の名は、小判形の黄色の楕円の中に書かれています。

図1の絵図には、北条と辻の間に河口があるように描かれています。図2の、松山城総合事務所にある寛永期の伊予一国絵図や、大洲市立博物館にある寛永期の伊予一国絵図でも、図1と同じように、立岩川は北条と辻の間を流れて海に注いでいます。

一方、愛媛県歴史文化博物館の「元禄伊予国絵図」では、現在と同じように、北条の北側を立岩川が流れているように描かれていて、北条と辻の間には河口がありません。元禄という年号は一六八八〜一七〇四年、五代将軍綱吉の時代です。立岩川は、江戸時代の初め、一七世紀前半には、北条と辻の間を流れて瀬戸内海に注いでいたの

です。

さらに、図2の絵図で村の名を書いた長方形の色に注目しましょう。立岩川の河口から延びた茶色の線の、辻村など南側が水色、北条村などの北側が白色に色分けされています。

寛永の時代は、まだ大洲領の飛び地が北条地域の南部に広がっていた時代で、中江藤樹の祖父が、大洲藩代官として柳原に住んでいたことをご存知の方もいるかと思えます。この北条地域の南半分にあった大洲領諸村と、松山領であった伊予郡・浮穴郡諸村（旧伊予市・旧砥部町のあたり）とを、寛永一二（一六三五）年に交換し、大洲領の飛び地を解消しました。これを「替地（かえち）」といいます。



図1 伊予国絵図寛永図 (愛媛県歴史文化博物館所蔵)

北条地域が二分されたのはなぜか

北条地域の北半分（松山領）と南半分（大洲領）で領主が違っていたのは、理由があります。それは、慶長五（一六〇〇）年、関ヶ原の戦いののち伊予の二大領主となった加藤嘉明と藤堂高虎とが、同年一二月に結んだ「領知協定」の条文です。

協定の条文では、沖合に浮かぶ鹿島の

の城と、城下侍屋敷・城付きの町を

「二ツ割」にすると定めたように読み取れます。この条文にもとづいて、辻村などの風早郡南側が藤堂高虎領、北条村などの北側が加藤嘉明領になったとみられます。そして、加藤嘉明の所領を松山藩の蒲生氏（さらに松平氏）が受け継ぎ、藤堂高虎の所領を大洲藩の加藤家が受け継いだと推測できます。



図2 寛永期の伊予一国絵図(松山城総合事務所蔵)

柚山先生のプロフィール

柚山 俊夫(ゆやまとしお)
 ●一九六一年今治市菊間町生まれ
 ●愛媛大学を卒業、県立高校や県生涯学習センターでの勤務のち定年退職、現在は県立図書館で文書目録作成に従事。



図3 松山領(太点線北側)と大洲領(太点線南側)の境界線(推定)
陸地測量部明治36年測量38年製版2万分1地形図「北条」を使用

南北の境界線を地図にかくと

さて、図2の絵図を丁寧に見て、村名をひとつひとつ調べ、その村が北側の松山領なのか南側の大洲領なのか調べてみました。

図2の村名を見ますと、江戸時代の村名が一覧できる史料には現れない村名が見つかります。それは、立岩川の近くにある「濱村」や「平田」です。

一方、村名が一覧できる史料にあつて、絵図にないのが土手内村です。土手内村は、海岸にありますから、ここを濱村と考えました。図2から、濱村

は、北条村と同じく北側の松山領であることが分かります。

図2に「中西」とあるのは、のちに中西内と中西外に分割された、などと考えたりしながら、整理して図化したところ、図3のようになりました。太い点線が南北境界線です。土手内は松山領の飛び地になります。鹿島城を半分ずつにすれば、ちょうどその延長線上に境界線を引くことができます。

博物館や図書館のデジタルアーカイブズにある絵図をみて、あれこれ考察してみましよう。楽しいですよ。

 伊予銀行

銀行を、
人に合うかたちへ
変えていく。

Better Money,
Better Life.

AGENT HOME SAFETY LIFE PALETTE



秋季生活文化部展示会

文化協会の生活文化部に所属する団体が、丹精込めて育てた、つばき・バラや水石・帯結び・拓本を展示します。美しい作品の数々をぜひご覧ください。

【日程】

11月11日(土)・12日(日)

【会場】

松山市総合コミュニティセンター コミュニティプラザ

【入場料】 無料

【協力】

松山つばき会・愛媛バラ会・八石之会・公益社団法人全日本きものコンサルタント協会愛媛県・伊予拓本研究会・公益財団法人松山市文化スポーツ振興財団



▲昨年の展示会風景▼



松山市文化協会理事会・総会

5月19日(金)、松山市総合コミュニティセンターにおいて、令和5年度の松山市文化協会理事会・総会を開催しました。総会では、令和4年度の事業報告等について審議を行いました。すべての議案を原案通り承認、または可決いたしました。

※お詫びと訂正

令和5年4月発行の『きらめき』創刊100号記念号の9ページ、「こんにちは!文協クラブ訪問」の日本古典文学愛好会の記事中で「愛媛大学文学部の西耕生教授」とありますが、正しくは「愛媛大学法文学部の西耕生教授」でした。お詫びして訂正させていただきます。

◎松山市文化協会の会員になりませんか

松山市文化協会は、松山市内で活動する各分野の文化団体等の連携や新たな文化の創造を図ることを目的に、市民文化祭や会員主催事業の後援など、各種文化事業を実施しています。多くの文化団体のご入会をお待ちしております。また、協会の目的に賛同、後援いただく賛助会員もあわせて募集しています。お気軽にお問い合わせください。

◎本誌へご意見をお寄せください

本誌に掲載している内容について、ご意見をファクス、お手紙、メールでお寄せください。

〒790-0012

松山市湊町七丁目5番地

松山市総合コミュニティセンター内

松山市文化協会事務局

☎089(909)8008 ㊚089(921)8242

✉ = matsu-bunkyo@cul-spo.or.jp

漱石先生も釣りしたのかな…

夏目漱石の小説『坊っちゃん』の中に釣りのシーンが描かれています。場所はこの四十島沖のような気がします。



釣りちょーさん 検索
http://tyo-san.co.jp



▲松山市高浜沖に浮かぶ四十島

子規交交 —しきこもごも—

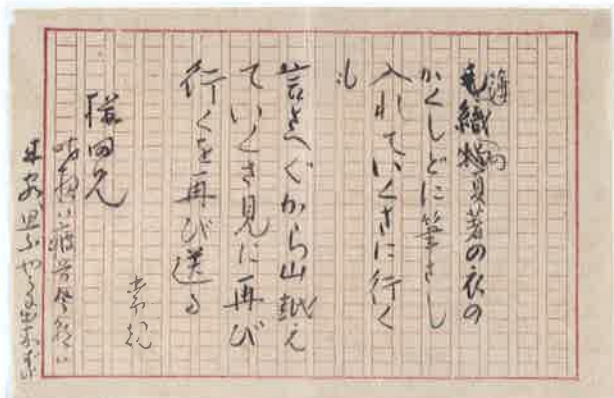
◎第五回 知られざる子規の歌書簡

坂の上の雲ミュージアム学芸員／子規庵宇宙の会会員

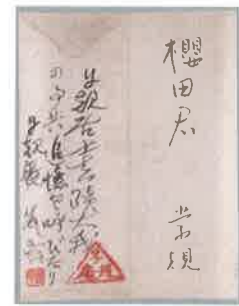
上田 一樹

今回は、坂の上の雲ミュージアムが令和二年に新しく収蔵した子規の直筆資料を紹介しようと思う。

その資料は、令和二年十月から翌年一月に当館で開催した特別展「正岡子規―新しい表現に挑む―」で初公開した子規の書簡（封筒付）である。はじめに、資料の写真と読み下しを挙げる。



正岡子規の桜田文吾あて書簡（明治33年7月）
（坂の上の雲ミュージアム所蔵）



封筒の表書は「桜田君 常規」。左には子規門の寒川鼠骨が「子規居士 書蹟大我の事共追憶を 呼びたり 子規庵 鼠骨」と極書をしている。

薄織の（毛織物）夏著の衣の
かくしどに筆さし
入れていくさに行く
も

言さへぐから山越え
ていくさ見に再び
行くを再び送る

桜田兄 常規

昨夜ハ疲勞今朝ハ
来客 思ふやうに出来ず候

子規が原稿用紙に短歌二首を認めたもので、宛先は桜田文吾という人物である。桜田は仙台出身で子規より四歳年長。号は大我・一寸坊・一寸法師。東京法学院卒。日本新聞社の子規の先輩記者で、明治二十七年には日清戦争を現地取材している。ルポルタージュを得意とし、スラムや戦場などの過酷な現場も厭わなかった。のちに京都へ移り、京華社や京都新聞社を創設、京都市会議員も務めた。

書簡に年月日の記載はないが、短歌二首は、子規の歌稿「竹乃里歌」の明治三十三年の項に「送大我従軍」の前書と共に記されている。また、佐佐木信綱主宰の歌誌「心の華」三巻八号（同年八月二十日刊）にも「桜田大我ぬしが天津に赴かれたのを子規子が送った歌」としてこの二首が見られる。さらに調べてみると、新聞「日本」同年八月五日号に、桜田が北清事変の取材で七月中旬に天津へ渡ることとなり、出発前

日の晩、「根岸の竹の里人から斯ふ云ふ歌を恵まれました」と、この二首が記されていた。桜田が子規から渡されたのが本書簡と見て間違いのないだろう。さて、タイトルを「知られざる」としておきながら、短歌はすでに知られている。では、何が「知られざる」のか。実は、この書簡自体は『子規全集』『子規選集』などの子規研究の主要文献に収録されていない。つまり、そもそも書簡の形であったことや、最後の「昨夜ハ疲勞今朝ハ来客、思ふやうに出来ず候」の一文も、これまで知られていなかったのである。

書簡を認めた明治三十三年七月の子規庵の来客は、句会・歌会も含めてのべ三十人以上。多忙も相まって子規の病勢は進み、翌八月十三日には多量の咯血のため執筆を休止している。それでも子規は、遠く天津へ渡る桜田のために筆を執った。当時の状況が端的に分かる貴重な一文であろう。そして、もうひとつの「知られざる」は一首目の推敲である。上五の「薄織の」がはじめ「毛織物」であったこと、この書簡によって初めて明らかとなった。季感と語感を鑑みて、毛織物ではなく薄織の夏着としたのである。写真・写生を重んじた子規らしい言葉の選択が看取できる。

日清戦争に従軍したことはよく知られている。一首目の如く、子規も着物の隠し戸に筆を入れ、新聞記者としていかなる状況にあっても筆を離さない、という覚悟を持って戦地へ赴いたのである。二首目の「言さへぐ」は「から（韓）」にかかる枕詞。北清事変では清国の内乱「義和団の乱」を鎮圧するため、ロシアやイギリス、アメリカやドイツなど八ヶ国が派兵しており、文字通り様々な言語が飛び交い、騒然としていたことは想像に難くない。ちなみに、桜田と時を同じくして清国へ渡ったのが『坂の上の雲』の主人公のひとり、秋山好古である。当初、第五師団兵站監として派遣された好古は、翌明治三十四年十月からおよそ一年半にわたって清国駐屯軍司令官を務めている。

『坂の上の雲』完結50周年
坂の上の雲ミュージアム 第16回企画展テーマ展示
明治日本のリアリズムー未来へ

生まれたばかりの近代国家「明治日本」の中で、人びとは何を考え、どのようなふるまっていたのでしょうか。

日本は西洋をモデルに憲法や国会をつくり、わずか30年ほどで近代化を押し進めます。1904（明治37）年に始まる日露戦争では、政治、軍事、外交などのあらゆる面で、自らの目や耳で得た情報をもとに冷静に現実を見つめ、なすべきことを実行していきます。

小説『坂の上の雲』は、1968（昭和43）年4月22日から1972年（昭和47）年8月4日まで「産経新聞（夕刊）」に連載されました。完結50周年となる今回の企画展では、明日のために今できること、を問いつけた小さな国のリアリズムを、事象と人物から描き出します。



右:山県有朋書「対峙両軍…」
(周南市美術博物館所蔵)
左:伊藤博文 大礼服儀礼刀用刀装
(山口県光市 伊藤公資料館所蔵)
※11月下旬までの公開

会 期…令和5年2月21日（火）～令和6年2月12日（月）
休 館 日…月曜日（休日の場合は開館）
開館時間…午前9時～午後6時30分（入館は午後6時まで）
観 覧 料…一般400円、高校生200円、高齢者（65歳以上）200円
中学生以下無料 ※20名以上の団体割引あり
場 所…坂の上の雲ミュージアム（松山市一番町三丁目20番地）
お問い合わせ…坂の上の雲ミュージアム 089（915）2600

文化情報松山「きらめき」秋号 令和5年9月
第10号 毎回1500部発行 非売品

編集・発行／松山市文化協会

世界一のロボットをつくる！
八幡浜工業高校 電気技術部

日本一の書道部になる
三好高校書道部

憧れを与えるクライマーになる
真鍋竜

世界に通用する溶接のスペシャリストになる
村井珠夏

日本を引張る新しいバスケットが活躍する
北山尚斗

ひめぎんは、ゆめぎん。
みんなの夢を応援します。

愛媛銀行

（事務局）松山市総合コミュニティセンター内
☎089(9)00980008 FAX089(9)2182242
企画取材／株式会社ナガシマ